来て！見て！知って！文化財

上之村神社本殿

屋根の曲線美と静かなる彫刻の融合　熊谷市上之16

上之村神社は、古くは久伊豆神社と称し、成田氏の崇敬が厚く、応永年間（1394～1418）に成田家時が社殿を再建したと伝えられています。江戸時代に入り、慶長9年（1604）に徳川家康から三十石の朱印地を与えられ、明治2年（1869）には村名をとって上之村神社と改称しています。

埼玉県指定有形文化財（建造物）の「上之村神社本殿」は一間の構造で屋根を支える一間社流造であり、棟が高く、木の部材も太いことから実際の規模より壮観な印象を与えてくれます。かつて茅葺であった屋根は銅板葺に改装され、その屋根の曲線美は本殿建築の偉容を更に高めています。細部に目を向けると、梁や桁の上に置かれる蟇股や、正面の庇の下部における手挟といった装飾部材などに、細やかな彫刻が施されています。特に、建物の上部にて柱と柱を繋ぐ頭貫には、その四方に三個ずつの蟇股が置かれ、十二支の彫刻が美しく表現されています。梁の一種で虹のように湾曲した虹梁と呼ばれる部位には、渦模様や若葉の絵が彫られています。

棟札などの建立に関わる資料はないものの、これらの蟇股や柱の隅に突出した装飾彫刻である木鼻の特徴から、17世紀初期から18世紀中頃の建立が推定されます。建築当初の姿をよく残し、当時の建築様式を伝える貴重な建造物です。

◆江南文化財センター　TEL 048-536-5062